

サマーフェスティバル突風事故一周忌に係る献花・黙祷式が行われました

昨年7月、敦賀市の金ヶ崎緑地で行われた「つるがきらめきフェスティバル」会場で大型テントが突風で倒壊し、10人が死傷した事故から1年となる27日、同緑地で献花・黙祷式が行われました。河瀬市長や当時の実行委員会会長の川上究さんをはじめ、関係者約70人が参列し、関係者から寄付を募り製作した「鎮魂の碑」に向かい、白い菊をたむけた後、事故発生時刻の午後0時50分には、全員で1分間の黙祷をささげました。

事故を受け、イベントは今年から打ち切りになっていましたが、河瀬市長は「復活してほしいという市民からの要望もある。対策をしっかりと行った上で、この場所でイベントをすることが風化を防ぐことにもつながる」と同緑地を使ったイベントを復活させたいとの意向を示しました。



建立された『鎮魂の碑』



献花式



河瀬一治市長

「悲しい事故から1年、犠牲になった方の冥福を心から祈りたい。いかに自然災害に対応した減災に努めるかを実感した。」



川上究元会長

「どうすれば遺族の方の気持ちを慰められるのか考え続けた1年だった。多くの人の温かい気持ちで鎮魂の碑を建立できた。」